

令和 8 年 9 月 森町議会定例会
議 員 一 般 質 問

令和 8 年 9 月 1 8 日（金）

質 問 者	質問方式	質問事項	質問要旨	答弁者
第 1 4 番議員 佐藤 嘉彦	一問一答	1 指定避難所 における空調設 備整備計画の進 捗状況について	本年 7 月 28 日に発生した熊本地震においても、避難所における環境整備の重要性が改めて浮き彫りとなった。 本町においては、昨年 12 月定例会での一般質問に対し、指定避難所への空調設備対策について「整備計画策定に向けて協議を進める」旨の答弁があった。 約 9 か月が経過したが、その後の協議の進捗状況と整備計画策定の見通しについて伺う。	町 長
		2 財政状況の 見える化と身近 なインフラ維持 管理への対応強 化について	森町が、限られた財源の中で、住民サービスを維持・向上させるには、行政の不断の努力に加え、住民が財政の現状や仕組みについて理解を深め、将来の課題や町の目指すべき方向性を共有することが不可欠である。 町はこれまで財政状況の公開に努めてきたが、専門用語や数字の羅列が多く、住民が「我がこと」として身近に捉えるには至っていないと思われる。 真に必要な行政サービスを確実に届け、持続可能なまちづくりを進めるには、従来の公表手法に止まらず、「見せ方」や「伝え方」を見直す必要があると考える。「情報公開の質」を高め、確かな信頼関係を築くことは、「対話・協働・共創」の第一歩であり、未来の森町に向けた大切な土台となる。こうした信頼の土台があつてこそ、年々増加していく生活に密着したインフラの維持管理などの地域課題に対して、住民と行政が一体となり取り組むことができると考える。 そこで、以下の 3 点について町長の見解及び今後の取組について伺う。 （１） 現在の本町の財政状況、将来的なリスクや見通しについて、町長自身はどのような認識を持	町 長

質 問 者	質問方式	質問事項	質問要旨	答弁者
			っているか。また、それらを住民と共有する上で、現在の情報発信の課題をどう捉えているか。 (2) 財政状況の公表にあたり、直感的に把握できる「ビジュアル版」や「概要版」を作成・活用する考えはあるか。また、それらを活用し、「町長と語る会」や「出前講座」等で、町長自らが住民へ直接説明し、議論する場を積極的に設けていく考えはあるか。 (3) 道路補修、河川清掃、樹木伐採等の生活インフラの維持管理に関する地元要望に迅速に対応するための「自主財源の確保・強化」について見解を伺う。また、町内会員等の高齢化により、従来の住民による直営作業（環境整備・美化活動等）が困難になる中、業者委託も補助対象に含めるなど、地域の実情に応じた補助制度（協働のあり方）の見直しを図るべきと考えるが、見解を伺う。	

質 問 者	質問方式	質問事項	質問要旨	答弁者
第 2 7 番議員 佐藤 明孝	一問一答	1 窓口業務時間の改善について	自治体における窓口業務時間の取組については、今後検討しなければならない業務改善と考える。森町近隣市の現況において袋井市は、本年 10 月から窓口開庁時間を午前 9 時から午後 4 時までに変更する試行が予定され、掛川市においても試行期間を定め、短縮する方針を明らかにしている。このほか磐田市でも 2026 年 11 月 2 日から短縮導入の方針を示している。県内では、松崎町が 2026 年 3 月から午前 8 時 30 分から午後 4 時 30 分まで短縮する実証実験を開始し、現在も継続中である。また下田市も 2026 年 5 月 7 日より、庁舎移転と同時に午前 9 時から午後 4 時までに開庁時間を短縮する実証実験を開始している。以上のように静岡県内自治体において、窓口業務時間の改革に取り組む自治体が報道されている。ここで森町の窓口業務時間に関し、どのような考えを持っているか伺う。	町 長

質 問 者	質問方式	質問事項	質問要旨	答弁者
第3 6番議員 清水 健一	一問一答	1 大規模地震発生後の町内の車中避難について	近年頻発する地震や豪雨災害においては、避難所だけでなく、自家用車で避難生活を送る「車中避難」が現実には発生している。令和8年熊本地震においても、余震への恐怖や避難所での集団生活が困難な方、小さな子どもや高齢者、障がいのある方、ペットを伴う方など、多くの被災者が車中泊避難を選択している。一方で、車中泊避難は、エコノミークラス症候群、熱中症、低体温症、一酸化炭素中毒などの健康上のリスクが危惧され、国も、やむを得ず車中泊避難を行う場合には、避難者の把握、必要な物資の配布、健康相談などの支援が必要であるとの考え方を示している。また、森町地域防災計画では、車中泊避難を行うためのスペースの設置、支援方策を検討するよう努め、また健康上の留意点の周知や、車中泊避難者への支援に必要な物資の備蓄にも努めるとなっており、方向性は示されている。そこで、災害時の車中泊避難者の安全確保のために伺う。 ・ 車中泊が可能な避難スペースの指定 ・ トイレ・照明・水の確保など最低限の環境整備 ・ 車中泊者の把握と巡回体制の構築 これらの対策をどのように進めていくのか、町の考えを伺う。	町 長
		2 町内の擁壁の適正管理と安全管理について	森町は、北部には三倉、天方をはじめとする、山あいの集落と道路が急傾斜地や河川沿いに形成されている。一方、町の中心部や一宮、飯田、園田などにおいても、平坦地の周辺には丘陵地や斜面地が存在し、住宅地、道路、農地などが複雑に接している。防災ハザードマップでは、町内の各地域について土砂災害の危険箇所や警戒区域が示されており、急傾斜地の崩壊に関する土砂災害警戒区域・特別警戒区域も町内各地に存在している。森町の地域特性を考えたとき、今後	町 長

質 問 者	質問方式	質問事項	質問要旨	答弁者
			ますます重要になるのが、斜面そのものの安全対策とともに、「人工的に設置された擁壁をどのように管理していくのか」という問題ではないかと考える。そこで町民の安全安心のために伺う。 (1) 町が管理する擁壁の箇所数、位置、構造、設置年代、規模及び点検状況をどの程度把握しているのか。 (2) 町が管理する擁壁について、定期点検は実施しているのか。 (3) 民間所有の擁壁について、相談が寄せられた場合、町はどのような対応を行っているのか。	
第 4 3 番議員 高木 幸広	一問一答	1 A E D の設置・管理と環境整備について	A E D は、突然の心肺停止が起きた際に、誰でも使用することができ、命を救うために重要な救命機器である。町民がいざという時に安心して A E D を使用できる環境を整えていくことが重要であると考えます。そこで、町における A E D の設置状況や点検・管理、そして女性に配慮した A E D の環境整備について伺う。 (1) 現在、森町の公共施設には、A E D が何台設置されているのか。また、設置場所が町民に分かりやすく周知されているか伺う。 (2) A E D 動作確認等の点検・管理はどのように行われているか伺う。 (3) 女性の傷病者に A E D を使用する際には胸部の露出を最小限にするなど、プライバシーへの配慮が必要である。そこで、A E D ケースに胸部を覆うための三角巾と女性に配慮した A E D の使用方法を明記したリーフレットをセットで備えてはどうか伺う。	町 長

質 問 者	質問方式	質問事項	質問要旨	答弁者
第 5 5 番議員 鈴木 哲司	一問一答	1 災害発生時の受援対応について	最近、線状降水帯での大雨や巨大地震といった自然災害が猛威を振るっている。森町にも、いつこのような災害が発生してもおかしくない。大災害が発生すれば直ぐに、緊急援助隊（消防、自衛隊、警察）の車両や救援物資が森町に入ってくると考えられる。こういった事象に対応するために受援計画が必要と思うが、今後策定する考えはあるか。	町 長
		2 火の見櫓の撤去について	令和 7 年 3 月の一般質問で火の見櫓を歴史的資源であり保全活用すべきとの質問に経年劣化により安全面を最優先と考えて対応すると答弁があった。令和 8 年熊本地震では製紙工場の煙突が崩落して多数の犠牲者が発生した。大きな火の見櫓の周りにはたくさんの民家があるため、転倒の危険性を考え、早急に撤去したらどうか。	町 長

質 問 者	質問方式	質問事項	質問要旨	答弁者
第 6 12 番議員 西田 彰	一問一答	1 避難所である体育館にエアコン設置について	令和 8 年熊本地震に続き、千葉県周辺と石川県・富山県への線状降水帯による大規模浸水、土砂崩れが発生した。被災地の避難所生活は猛暑で過酷なものとなっている。環境が良くないからと、車中泊や軒下避難を選ぶ人もいる。熊本では指定されていた体育館へのエアコン設置率は 2 割程度、10 年前の地震の教訓は生かされていない。避難所や子どもたちは熱中症のリスクを抱え続けている。避難所に指定されている体育館のエアコン設置率は全国でも 3 割ほど、森町ではゼロという状況である。国では 2035 年をめどに体育館エアコン設置補助としていたものを 5 年繰り上げ、2030 年をめどに設置補助を進めるとの報道もされた。そこで伺う。 子どもたちの安全安心はもとより、大災害はいつ起こるか予想ができないからこそ指定された体育館避難所にエアコン設置は喫緊の課題として何をおいても必要ではないのか。	町 長
		2 休園となっている一宮幼稚園について	一宮幼稚園が休園となって数年が経つ。令和 7 年 6 月の全員協議会以来、行政からは何も示されていない。建物は使われないと痛みが早い。早急な判断が求められることを地域住民は願っている。伺う。 (1) 活用方法、もしくは撤去等議論されているか。 (2) 聖隷事業団（愛光園）と話し合いは考えていないか。	町 長

質 問 者	質問方式	質問事項	質問要旨	答弁者
第 7 1 番議員 榊原 雄太	一問一答	1 二元代表制における住民自治と自治基本条例について	人口減少や少子高齢化、価値観の多様化、行政課題の複雑化が進む中、行政だけで地域の課題を解決していくことは難しくなっているといわれている。 これからの森町においては、町民、行政、議会がそれぞれの役割を認識し、相互に連携しながら地域の課題を解決していくことが、これまで以上に重要になると考える。 そこで、町民、行政、議会それぞれの役割について、どのように認識しているかを伺う。 (1) 二元代表制における町長と議会、それぞれの役割をどのように認識しているか伺う。 (2) 人口減少社会において、町民、行政、議会のそれぞれの役割に変わりはあるか伺う。 (3) 町長と議会の意見が異なること、あるいは政策について対立することについて、どのように認識しているか伺う。 (4) 自治体運営において、町民、行政、議会それぞれの役割や町民参加、情報共有などの基本的な考え方を明確にするために、「自治基本条例」や「まちづくり基本条例」などの名称で、自治の基本的なルールを条例として定めている自治体がある。自治の基本的なルールを明文化することについて、どのように考えているか伺う。 (5) 自治基本条例を含め、森町の自治のあり方について研究・検討する場を設ける考えはあるか伺う。	町 長